

平成 25 年（2013 年） 度
金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

小論文

A 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は 9 枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 問題 1 と問題 2 の解答は、別々の解答用紙に記入してください。

平成 25 年度（2013 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	小 論 文
------	-------

※ 問題 1 と問題 2 の解答は、それぞれ別の解答用紙を用いること。

問題 1

出典：信田さよ子『DVと虐待 「家族の暴力」に援助者ができること』（医学書院、2002年）12－27頁による。

問 1

下線部①において、なぜ「親の悲劇」として扱われたと筆者は考えているのか、200字以内で説明しなさい。

問 2

下線部②の「名付けにまつわる権力性の問題」とはどういうことか。ここに挙げられている例を使って、500字以内で説明しなさい。

問題 2

出典：大野晋「日本語練習帳」（1999年、岩波新書）2－8頁による。

問 1

「思う」と「考える」という似た意味の言葉について両者の違いを比較しながら、それぞれの意味を、筆者の見解に即して200字以内で説明しなさい。

問 2

デカルトの哲学の基本原則として有名な言葉に、「コギト・エルゴ・スム」(cogito ergo sum)、日本語では「我思う、ゆえに我あり」と訳された言葉がある。筆者の「思う」と「考える」についての見解に即した場合に、この「思う」という日本語訳に対して、あなた自身はどう訳すべきであるか、500字以内であなたの見解をまとめなさい。